地域への恩返しから始まった気高い精神を継いで美化活動に挑む

農林水産大臣賞　　福岡県　朝倉市立蜷城小学校

桂川、佐田川、筑後川と 3 つの川に囲まれた、のどかな農村地帯に佇む同校。川の恩恵を受ける一方で、大雨が降るたびに幾度も水害に見舞われてきた。特に、1953 年の豪雨は多数の被災者を出す未曽有の大災害だったが、各国の赤十字団や住民がいち早く救援に駆け付けてくれた。当時の児童は、感謝の思いから青少年赤十字団に加盟。川魚を獲って販売するなどして、貯まった資金を募金として寄付した。その精神は現在まで脈々と受け継がれ、青少年赤十字活動（JRC 活動）の一環として、お世話になっている地域へ恩返しを続けている。

その取り組みの一つが、VS（ボランタリーサービス）登校。主に、毎週水曜日の登校時に、ポイ捨てごみの回収活動を全校で行っている。同時に、VS 活動として、授業開始前の朝 15 分間、校区の地域清掃活動も実施。児童は、「気づき、考え、実行する」を合言葉に、地域のために自分が何をしたらいいのか日々考えながら取り組んでいる。1953 年以来 68 年の長きにわたり、親子 2 代、3 代と連綿と続く地域に根付いた活動に成長している一方で、児童が無意識に淡々と行うことが当然のように受け止められていた。それを、地域に頼りにされる尊い取り組みであることを再認識しようと、活動の成果を見える化。児童が回収したポイ捨てごみを日々撮影し、わかりやすく掲示するなど工夫を凝らす。

農業が主たる産業の土地柄で、道路や側溝には、肥料袋やビニールハウスの破片などのごみも目立つ。昨年からは、環境と防災がリンクする形で教育プログラムを一本化している中で、排水溝に溜まった落ち葉やごみが水害の一因となることを知った児童は、VS 活動で、積極的に溝のごみ掻きを行うようになった。

地域コミュニティセンターの羽野勉センター長は、「**子どもたちが普段ごみ拾いをしてくれるおかげで、道路が冠水するなど水害が発生しても、その後の片付けが楽になりました。子どもの力のすごさを実感しています**」と目を細める。

69 年前、先輩たちが胸に刻んだ「地域への恩返し」。今は、47 名の児童たちが、原点を忘れることなく美化活動に励んでいる。

福岡県　朝倉市立蜷城（ひなしろ）小学校

学校長：前田　圭子（まえだ　けいこ）
児童数：47 名（2021 年 11 月末現在）
住所：福岡県朝倉市林田 220
電話：0946-22-3011
アクセス：「高速甘木」バス停よりクルマで約 15 分

上：農業資材や空き缶などのごみが散乱する数年前の桂川の様子、2 番目左：ごみを回収しながら登校する VS 登校、右：排水溝のごみを掻きだす児童、3 番目左：アルミ缶回収で得た資金は募金寄付、右：活動を見える化して価値付ける、下：育てた野菜を販売して募金に充てる